

## 教養相談の子後に関する調査

——知能と学校生活への適応状態について——

研究第5部 望 月 武 子

### I 目 的

子どもの教育にあたって、個々の子どもの発達や能力に応じた指導をすることの重要性や有効性が強調されておりながら、実際に学校教育の場では、子どもの能力差を十分に考慮した授業が行なわれているとはいえない。一学級内の児童の知能指数の分布状態からみても、知能年齢には非常な隔差があり、指導上の困難さは十分に想像できることではあるが、画一的な授業や一斉的な課題を与えるために、一部の子どもが置きざりにされていることを否定することはできない。

特に、最近のように、文化的な刺激が増加し子どもの成長加速化が問題にされたり、両親の教育に対する意識が高まっている現状においては、知的能力が平均に達していない子どもは、従来よりもいっそう学校生活への不応答をおこしやすく、また、両親も子どもの教育について不安を抱きやすいのではないかと考えられる。

したがって、今回はこのような子どもの学校生活への適応状態を調べ、今後の指導のための資料を得ることを目的とした。

### II 方 法

昭和44年度、45年度に教養相談室で扱ったケースの中から、46年3月現在、小学校に在学しているものになり、IQ80、90代のものには全員に、他は無作為に抽出して417名を選び質問紙を送り、146名から回答を得た。回収率は35.0%、回答者のIQの分布は第1表の通りである。このうちIQ99以下のものを対象群とし、IQ100以上のものを比較群として考察をすすめた。

質問紙は、学校生活への参加状況、学校と家庭での学習状況、教師との関係、友人関係、健康状態などに関する項目を用意し、諾否法で保護者に回答してもらった。他に、学校や教師に対する要望と、現在子どものことで心配になっていることがらを自由記述で記入を求め、同

時に子どもの学業及び行動に対する担任の評価を通信簿から転記してもらった。

第1表 回答者のIQの分布

IQ	人 数	%
70 ~ 79	11	7.5
80 ~ 89	16	11.0
90 ~ 99	26	17.8
100 ~ 109	21	14.4
110 ~ 119	32	21.9
120 ~ 129	23	15.8
130 ~	17	11.7

### III 結 果

#### 1. 学校生活への参加状況

学校生活への参加状況を、喜んで通学しているか、病気でないのに学校を休んだり遅刻することがあるか、学校の行事に喜んで参加するか、クラブ活動や係りの仕事に参加しているかの質問でとらえたが、これらの項目についてはほとんど差が認められなかった。

しかし、第2表に示したように、喜んで通学している

と回答したものの割合が、IQ100以上のグループに比

第2表 喜んで通学しているか

IQ段階	項目		%
	喜んで通学	ふつう	
70 ~ 79	7 63.6%	4 36.4%	%
80 ~ 89	7 43.8	9 56.3	
90 ~ 99	12 46.2	13 50.0	1 3.8
100 ~	69 74.2	22 23.7	2 2.2

第3表 学校生活と家庭生活を比べて態度が違  
うように感じるか

IQ段階	項目	は	い	いい	え
70 ~ 79		3	27.3%	8	72.7%
80 ~ 89		7	43.8	9	56.3
90 ~ 99		10	38.5	16	61.5
100 ~		17	18.3	76	81.7

べ80、90代のグループにやや少ない傾向がみられる。  
「学校生活と家庭生活を比べて、かなり態度が違うよ  
うに感じるか」の質問に対しては第3表に示したように、  
家庭と態度が違うように感じるというものが、IQ90代  
以下のグループの方に多く、概して引込思案である、意  
志表示ができない、内弁慶などの傾向を示すものが多  
くなっている。

これらから、IQ90代以下のグループでは明らかな不  
適応行動を示すものが多いとはいえないが、IQ100 以  
上のグループの方に学校生活を楽しみ、積極的に参加し  
ているものが多いということができよう。

2. 学習活動について

第4表に示したように、学業成績はIQ段階との関連  
が強く、IQ段階が低くなるにしたがって成績が悪いも  
のが多くなっている。

第4表 学 業 成 績

IQ段階	良	い	ふつう	悪	い	不	明
70~79		%	1	9.1	10	90.9	%
			(特殊学級)				
80~89			5	31.3	11	68.8	
90~99	5	19.2	7	26.9	13	50.0	1 3.8
100~	38	40.9	42	45.2	11	11.8	2 2.2

IQ90代のグループについてみると、成績が良いと答  
えた5名は4年生が1名、1年生が4名で、悪いと答  
えたものは6年生、5年生、4年生が各2名、2年生5名、  
1年生2名であり、学年がすすむと次第に成績不振が目

第5表 勉強がむずかしくていけない心配があるか

IQ段階	は	い	いい	え	無記入
70 ~ 79	4	36.4%	7	63.6%	%
80 ~ 89	11	68.8	5	31.3	
90 ~ 99	10	38.5	15	57.7	1 3.3
100 ~	4	4.3	88	94.6	1 1.1

だってくる傾向が推察される。

「勉強がむずかしくていけない心配があるか」  
に対する回答を第5表に示した。

IQ90代のグループでは38.5%、80代のグループでは  
68.8%が勉強についていけない心配をもっている。しか  
し、IQ70代のグループでは、特殊学級に在籍する1名  
を除き、他は全員が成績が悪いと回答しておりながらも  
勉強についていけない心配をもっているものの割合が少  
なくなっている。

「授業中、ぼんやりしている、おちつきがないなど  
と注意されることが多いか」「忘れものが多いといわれ  
るか」の質問に対する回答は第6、7表に示したように、  
IQ段階が低くなるにしたがい注意をうけるものの割合  
が増加している。

第6表 授業中、ぼんやりしている、おちつき  
がないと注意されることが多いか

IQ段階	は	い	いい	え	無記入
70 ~ 79	7	63.6%	4	36.4%	%
80 ~ 89	8	50.0	8	50.0	
90 ~ 99	9	34.6	16	61.5	1 3.8
100 ~	24	25.8	68	73.1	1 1.1

第7表 忘れものが多いといわれるか

IQ段階	は	い	いい	え	無記入
70 ~ 79	6	54.4%	5	45.5%	%
80 ~ 89	7	43.8	7	43.8	2 12.5
90 ~ 99	8	30.8	18	69.2	
100 ~	15	16.1	77	82.8	1 1.1

「宿題はたいていきちんやっているか」「宿題がむ  
ずかしくて一人でできないことが多いか」の質問への回  
答は第8、9表に示した。IQ90代以下のグループで  
は、いわれなければ宿題をやらない、むずかしくて一人  
でできないものの割合が多くなっている。

また、家庭での学習をいやがって困るというものは、  
第10表に示したようにIQ90代以下のグループではIQ

第8表 宿題はきちんとやるか

IQ段階	いわれなく てもやる	いわれな ければやらない	無記入・宿 題なし
70 ~ 79	6	54.4%	5 45.4%
80 ~ 89	6	37.5	9 56.3
90 ~ 99	18	69.2	7 26.9
100 ~	77	82.8	12 12.9
			4 4.3

第9表 宿題がむずかしくて一人でできないことが多いか

IQ段階	は い		いいえ		無記入・宿題なし	
		%		%		%
70 ~ 79	8	72.7	3	27.3		
80 ~ 89	11	68.8	4	25.0	1	6.3
90 ~ 99	7	26.9	18	76.9	1	3.8
100 ~	6	6.5	85	91.5	2	2.2

第10表 家庭での学習をいやがるか

IQ段階	は い		いいえ		無記入	
		%		%		%
70 ~ 79	6	54.5	5	45.5		
80 ~ 89	7	43.8	9	56.3		
90 ~ 99	7	26.9	12	65.4	2	7.7
100 ~	31	33.3	62	66.7		

段階が下がるにしたがって増加しているが、IQ 100以上のグループにも、IQ 100代、110代にかなりの高率にみられ、単に知能との関係だけからはみることができない。

### 3. 教師に対して

「担任の先生を好んでいるか」「先生をこわがるか」の質問にはIQ 90代のグループで5名19.2%が、それぞれ先生を嫌い、先生をこわがるの項に回答し、他のグループに比べ、いくぶん多くなっている。

また、第11表にみられるように、先生から注意されたり叱られたりすることが多いものは、IQ 90代以下のグループの方にやや多く、IQ 段階が下がるほど多くなる

第11表 先生から注意されたり叱られたりすることが多いか

IQ段階	は い		いいえ		無記入	
		%		%		%
70 ~ 79	4	36.4	6	54.5	1	9.1
80 ~ 89	5	31.3	10	62.5	1	6.3
90 ~ 99	7	26.9	19	73.1		
100 ~	15	16.1	77	82.8	1	1.1

第12表 先生と接したり話したりするのをいやがるか

IQ段階	は い		いいえ		無記入	
		%		%		%
70 ~ 79	1	9.1	10	90.9		
80 ~ 89	5	31.3	11	68.8		
90 ~ 99	11	42.3	14	53.8	1	3.8
100 ~	8	8.6	83	89.2	2	2.2

傾向がみられるが、先生と接したり話したりするのをいやがるものは、第12表のようにIQ 70代のグループに比べてむしろ80代、90代のグループの方に多い。このことから、IQ 90代のグループに、教師との関係がうまくいかず、消極的な態度を示しているものが多いのではないかと推察される。

### 4. 友だちに対して

「友だちがあるか」に対し、いいえと答えたものはIQ 90代以下のグループに多い。「友だちとけんかや争いが多いか」の質問にはほとんど差がみられないが、自分からすすんで仲間に入ろうとしないもの、友だちに嫌われたり仲間はずれにされたりするものがIQ 90代以下のグループに多く、友だち関係が消極的で、仲間づくりができていないことを示している。(第13、14、15表)

### 5. 健康状態

登校時に気分が悪くなることあるか、帰宅時に疲れたようすがみえるかなどの質問に対しては、IQ 段階別にみてほとんど差がみられなかった。

第16表にみられるように、運動能力が他の子どもと比べて劣っているというものはIQ 段階が低くなるにした

第13表 友だちがあるか

IQ段階	は い		いいえ	
		%		%
70 ~ 79	9	81.8	2	18.2
80 ~ 89	11	68.8	5	31.3
90 ~ 99	19	73.1	7	26.9
100 ~	88	94.6	5	5.4

第14表 すすんで仲間に入ろうとするか

IQ段階	は い		いいえ		無記入	
		%		%		%
70 ~ 79	6	54.5	5	45.5		
80 ~ 89	5	31.3	11	68.8		
90 ~ 99	12	46.2	13	50.0	1	3.8
100 ~	65	69.9	25	26.9	3	3.2

第15表 友だちに嫌われたり仲間はずれにされることが多いか

IQ段階	は い		いいえ		無記入	
		%		%		%
70 ~ 79	4	36.4	6	54.5	1	9.1
80 ~ 89	7	43.8	9	56.3		
90 ~ 99	9	34.6	17	65.4		
100 ~	7	7.5	85	91.4		

第16表 運動能力が他の子どもと比べて劣っているか

IQ段階	は い		い い え	
	人数	%	人数	%
70 ~ 79	9	81.8	2	18.2
80 ~ 89	11	68.8	5	31.3
90 ~ 99	12	46.2	14	53.8
100 ~	20	21.5	73	78.5

がって、その割合が増加している。

### 6. 学校及び教師に対する要望

IQ70代の11名中、特殊学級在級者は1名のみで他はいずれも普通学級にいる。

学校や教師に対する要望のあるものは6名(54.5%)あり、残りは要望なし、または無記入のものである。そのうち1名は入学時に特に先生にお願いして、よくしていただいたと満足を示している。

要望の内容は、勉強のできない子にも愛情と理解がほしい2名、長い目で根気よくみてほしい2名、引込み思案だからひきたててほしい1名など、発達の遅い子どもに対する教師の扱い方について述べたものが多い。1名は「おこなっているからと特殊学級へいくことを望んでいるようで、全く無視された状態だった。具体的に相談にのってほしい」と教師の態度に強く不満を訴えており、他の1名は「特殊学級をすすめられているが、遅進児を対象にした促進学級がほしい」という希望を述べ、「通信簿の評価ではわりきれない能力をもっている子だと信じているので」と教師の評価に不信をもらしている。

IQ80代のグループでは、無記入3名、大変よくしてもらっている1名を除く12名(75%)のものが、何らかの要望を表明している。

個人面接が少なく子どもの状態がわからない、どの程度おこなっているのか、学校での様子を連絡してほしいなど、担任教師から子どもの状態についての具体的な情報を求めているもの3名、何か長所もあると思うのでそれを認めてひきだしてほしい2名、思いやりをもって長い目でみてほしい2名、子どもの話をよくきいてあげてほしい1名、読解力がない、自己主張しないなど子どもの問題点について指導してほしい2名、などがある。

先生がいろいろ心配して骨を折ってくれるのが逆効果になるようだとしたものが1名、成績が悪ければ特殊学級へという担任の考えが残念だというものが1名あった。

IQ90代のグループでは、要望なし6名、無記入5名、担任がよく理解してくれて満足している3名があ

り、残りの12名(46.2%)が要望をもっている。

子どもの性質のみこんで自信をつけてほしい3名、教科の劣る面をついていけるように指導してほしい2名、理解していないのにどんどん進んでしまうので不安になる、その学年の教科内容をていねいに教えてほしいなど、教科の進度についていけない子どもの指導法に関するもの3名、子どもの悪い点ばかりみて長所をみってくれる先生がなかった、授業内容が悪く教科書をとばして教える、子どもが先生を嫌うなど教師に対する不満や不信を述べたもの3名、1~2年ぐらいは同じ先生に担任してほしいなどが要望としてあげられている。

一般的にみると、IQ90代以下のグループの学校や教師に対する要望としては、おこなっているから、あるいは成績が悪いからということで、子どもの学校での生活全体が消極的になってしまうのに対し、教師の具体的な指導や思いやりのある暖かい心づかいを望んでいるものが多い。そして、そういう扱いから子どもが自信をもち、現在以上の能力がひきだされていくことを期待している傾向がみられる。

これに比べてIQ100以上のグループでは、満足している11名(11.8%)、要望なしまたは無記入45名(48.4%)で、残りの37名(39.8%)が要望を表明している。

その内容は、一人一人に目を注いで授業してほしい、平等に扱ってほしい、ついていけない子をひきあげることに重点がおかれ平均以上の子が放置される、宿題を出してほしい、宿題を減らしてほしいなど、個々の子どもの立場、特性などによりさまざまなものがある。その中に、良い先生で感謝しているというものが一方、小学校教師として適性のある人を望みたい、未経験の先生が子どもの心を理解せず体罰を用いる焦りの教育がみられた、公立校から私立校へ転校した結果、学校や先生によりこんなに違うのかと思うほどだ、など、教師の人格や教師としての資質に不信感をのべているものが少数ではあるがみられる。このことに関連して、毎年先生が変わるので良い先生にあたるように祈っている、新しい先生になれるまで気疲れするなどの記述にみられるように、どんな教師が子どもの担任になるかということは親にとって重大な関心事となっているようである。

### 要 約

IQ80、90代の子どもの学校生活への適応状態を調べた。

学校生活に対する態度は、明らかな不適応行動を現わしているものはほとんどみられないが、全般に消極的である。

望月：教養相談の子後に関する調査

学業成績は悪く、親は子どもが教科の進度についていけないという不安をもっているものがかなり高率にみられる。

授業中、ぼんやりしている、おちつきがない、忘れものが多いなど注意されるものが多く、学習活動に十分に参加していないことを示している。

教師との関係は消極的で、先生に接することをいやが

るものが比較的多い。

友人関係ではけんかや争いなどは少ないが、仲間に入りにくく、嫌われたり仲間はずれにされる場合が多い。

学校や教師に対する保護者の要望としては、成績が悪く、消極的な傾向のつよい子どもに、自信をもたせ何らかの長所をひきだしてくれるような具体的な指導や思いやりのある態度を望むものが多かった。

## Intelligence and Adjustment Conditions to School Life

Investigation into Prognosis of Problems consulted at Psychological and Educational Consultation Section of Nippon Aiiiku Research Institute

Dept. 5 Takeko Mochizuki

The adjustment conditions to school life of the children with IQ scores of 80 and 90 levels were investigated.

Obvious maladjusted behaviors are not found in their school lives, but generally, most children are showing passive behaviors.

Their school achievements are poor, and a considerable number of mothers are anxious about their children not being able to keep pace with the progress of class-works.

Many of the children show they are not fully participating in learning activities, some being inattentive, others being uneasy, and many are often cautioned by their teachers not to forget to bring the things required for school life.

Relatively a large number of children don't like to come in touch with their teachers. Their relations to their teachers are negative.

Regarding the relation to their class-mates, they neither quarrel nor compete much with their mates, rather they have difficulty in mixing with the class-mates, and in many cases they are hated by or left out of the group.

Many parents demand from the school authorities and teachers practical guidance and thoughtful attitudes for the children with poor school achievement and passive tendency so that they may make each child gain self-confidence and draw out some good point from him.